



令和2年度

中央卸売市場事業会計決算の概要

令和3年（2021年）11月

札幌市中央卸売市場

1 公営企業会計の特色

○公営企業会計の収支は収益的収支と資本的収支の2種類に区別されます。

【収益的収支】

- ・市場を運営するための日常的な活動による収支
- ・1年間の経営成績を表す

【資本的収支】

- ・施設の建設・改築及び設備更新にかかる収支
- ・収入と支出の効果が翌年度以降に及ぶ

2 収益的収支 ・ ・ ・ 経営の収支

(単位：千円)

区 分	R2年度決算 ①	R2年度予算 ②	差引①－②
収益的収入 (A)	2,117,246	2,177,000	△59,754
営業収益	1,504,130	1,585,000	△80,870
営業外収益	613,117	592,000	21,117
収益的支出 (B)	2,169,825	2,355,000	△185,175
営業費用	1,981,105	2,136,000	△154,895
営業外費用	188,720	214,000	△25,280
予備費	0	5,000	△5,000
差引 (A)－(B)	△52,579	△178,000	125,421

【収益的収支】

収支は5,258万円の赤字となったが、予算と比較し、1億2,542万円良化。

○収益的収入

新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う売上高割使用料※の減少等により、5,975万円の減収。

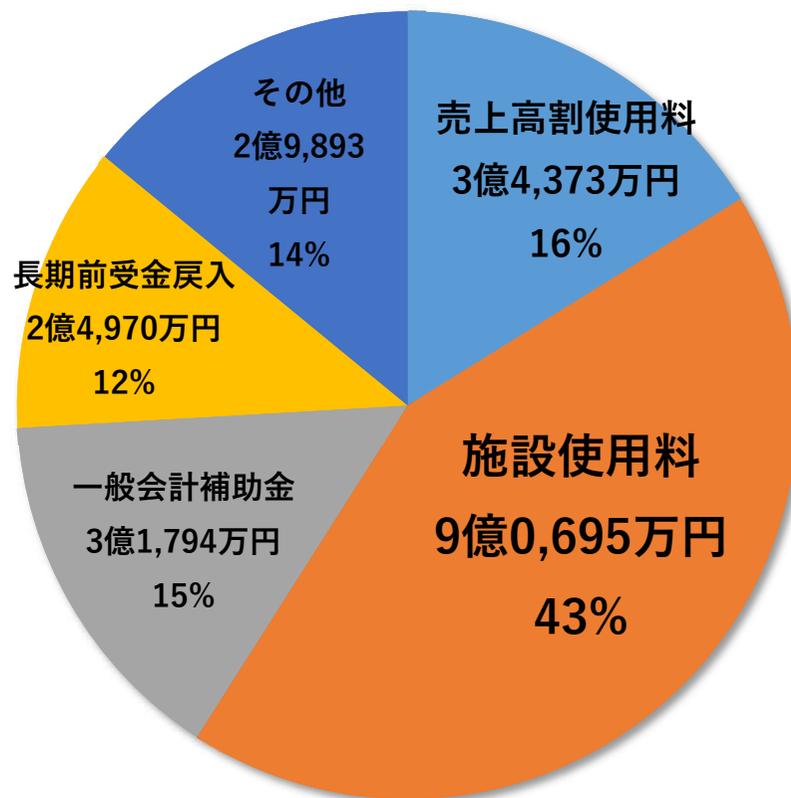
○収益的支出

光熱水費の減少や人事異動に伴う人件費の減少等により、1億8,518万円の不用額が発生。

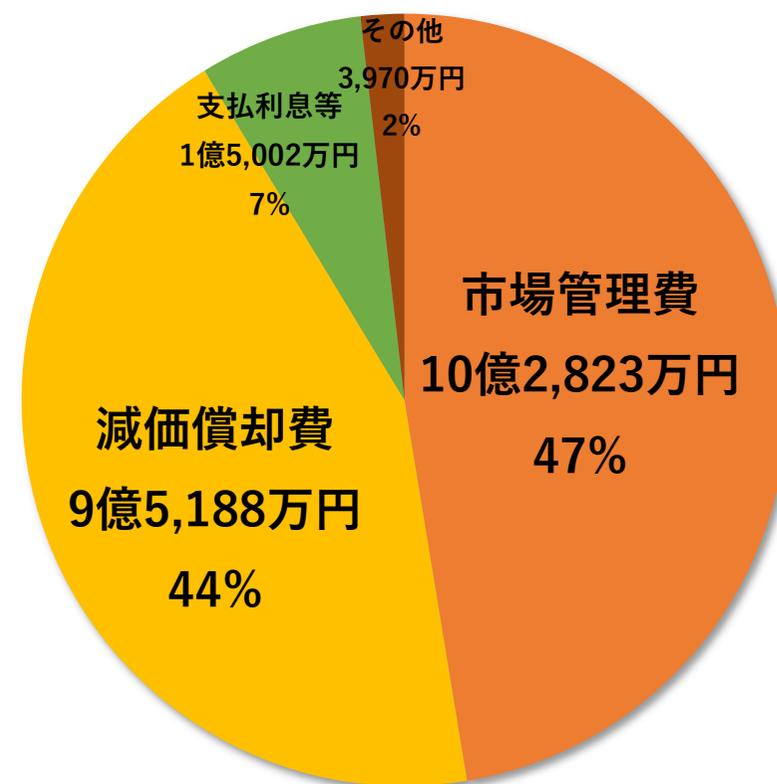
※卸売業者や仲卸業者が取扱額に応じて支払う使用料

2 収益的収支 ・ ・ ・ 経営の収支

収益的収入（21億1,725万円）



収益的支出（21億6,983万円）



3 資本的収支 ・ ・ ・ 建設改良費とその財源

(単位：千円)

区 分	R2年度決算 ①	R2年度予算 ②	差引①-②
資本的収入 (C) ※1	1,078,685	1,155,000	△76,315
資本的支出 (D) ※2	1,744,489	1,778,000	△33,511
差引 (C) - (D)	△665,804	△623,000	△42,804

※1 企業債（建設改良費等に充てる借入金）の借入や
出資金（一般会計からの繰入金）など

※2 建設改良費や企業債の償還金など

【資本的収支】

収支は6億6,580万円の赤字となり、予算と比較し、赤字額について4,280万円増加。

○資本的収入

企業債の借入額等の減少により7,632万円の減少。

○資本的支出

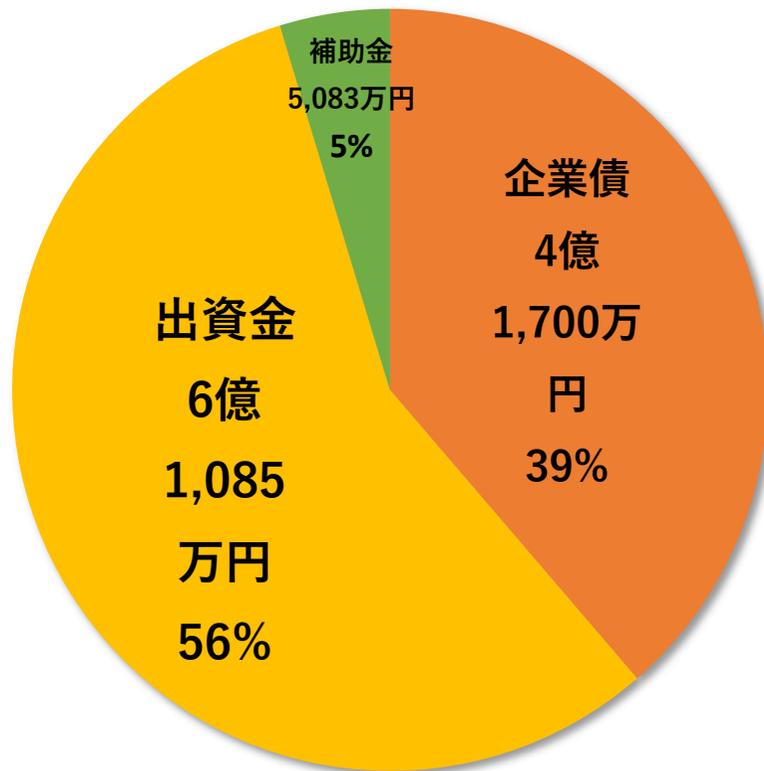
契約差金等による建設改良費の減少により3,351万円の不用額が発生。

○建設改良費の内容

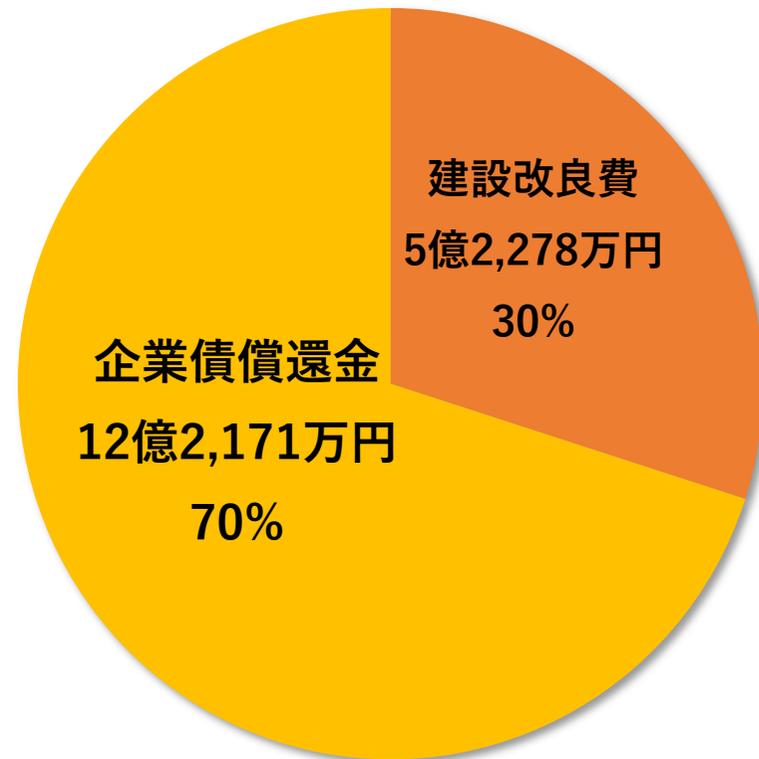
- ・ 青果棟ガスヒートポンプ室外機更新
- ・ 高圧連絡線整備ほか電気設備工事
- ・ 検定電力メーター更新
- ・ 水産保冷配送センター冷凍冷蔵設備ほか改修
- ・ 水産保冷配送センター内部改修
- ・ 水産棟ガスヒートポンプ室内機改修実施設計 他

3 資本的収支 ・ ・ ・ 建設改良費とその財源

資本的収入（10億7,869万円）



資本的支出（17億4,449万円）



4 資金の状況

(単位：千円)

区 分	R2年度決算①	R2年度予算②	差引①－②
収益的収支	△52,579	△167,000	114,421
資本的収支	△665,804	△623,000	△42,804
当年度損益勘定留保資金等 ※1	678,112	707,667	△29,555
当年度収支差引 (E) ※2	△40,270	△82,333	42,063
過年度分内部留保資金 (F) ※3	982,556	856,259	126,297
差引 (F)-(E) ※2	942,287	773,926	168,361

※1 減価償却費や賞与引当金といった現金の支出を必要としない費用で、企業内部に留保される資金

※2 千円以下四捨五入により、差引額が一致しない場合有

※3 過年度から繰り越された資金

【資金残】

資金は4,027万円減少し9億4,229万円となったが、予算と比較し1億6,836万円の好転。

5 業務量

(単位 量：トン、額：千円)

区分	R2年度決算 (A)	R2年度予算 (B)	予算対比		
			増減 (A)-(B)=(C)	増減率(%) (C)÷(B)	
取扱量	水産物	70,052	75,029	△4,977	△6.6
	青果物	231,817	252,488	△20,671	△8.2
	計	301,869	327,517	△25,648	△7.8
取扱額	水産物	80,809,181	93,862,000	△13,052,819	△13.9
	青果物	54,315,511	57,217,000	△2,901,489	△5.1
	計	135,124,692	151,079,000	△15,954,308	△10.6
売上高割使用料	水産物	205,768	238,999	△33,231	△13.9
	青果物	137,958	145,691	△7,733	△5.3
	計	343,727	384,690	△40,963	△10.6

【水産物】

「さんま」・「にしん」の不漁や、新型コロナウイルス感染拡大に伴う高級水産物の単価下落などにより、取扱量において6.6%、取扱額において13.9%の減少。それに伴い、売上高割使用料についても13.9%の減少。

【青果物】

天候不順等により、「ばれいしょ」・「だいこん」等及び果実類の入荷が減少し、取扱量において8.2%、取扱額において5.1%の減少。それに伴い、売上高割使用料についても5.3%の減少。

6 令和2年度予算との比較

【収益的収支】

収入では、新型コロナウイルス感染拡大の影響等による取扱額の減少により売上高割使用料が減少したものの、支出においても、光熱水費や人件費などの市場管理費が減少したことから、収支は1億2,542万円好転しました。

【資本的収支】

支出では、契約差金等により建設改良費に不用額が発生したものの、企業債借入額の減少もあり、収支は、赤字額について4,280万円の増加となりました。

【資金残】

資本的収支が悪化したものの、収益的収支の好転により資金残は1億6,836万円好転しました。

【まとめ】

令和2年度決算は予算と比較し概ね好転しましたが、令和元年度と比較して減少したものの、依然として収支の赤字が続いています。今後、市場施設の経年劣化による修繕費の増加等が見込まれることから、持続可能な財務体質の構築を目指し、経費の見直しや収入増の取組を実行していきます。